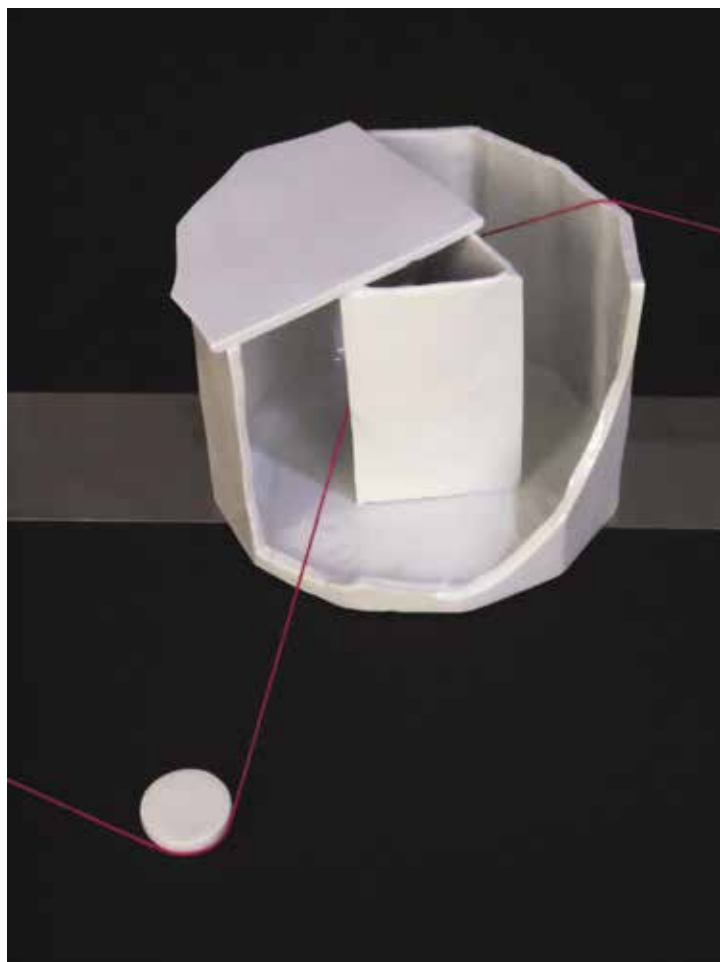


アート・ギャラリー

白 磁

=司馬遼太郎記念館=

石 田 成 昭



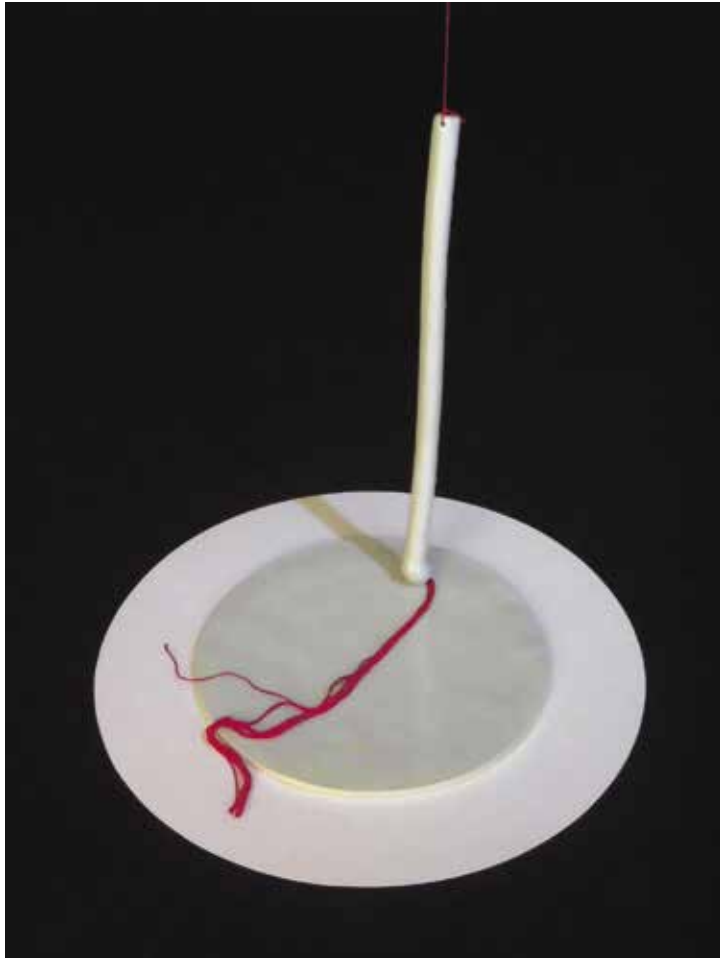
奈野 5 9 5 高 12cm

一 司馬遼太郎記念館一

近畿大学の最寄り駅・近鉄八戸の里近くに司馬遼太郎記念館がある。司馬の亡くなった後 2001 年に自宅敷地内に安藤忠雄設計の記念館が建てられた。司馬は歴史小説、随筆、評論と多方面に才能を発揮し、その小説は数多く映像化され、日本を代表する作家である。毎年春が近づくと駅周辺の道路沿いに菜の花の黄色い帯が列を成し、この街は司馬さんを敬愛し多くの竜馬ファンと共に生きていることがよく分かる。記念館の設立を新聞で知り大学の帰途記念館に立ち寄った。門を入ると右手に書齋が見え大きな椅子と机が当時のまま残されている。ここが幾多の名作の誕生の地なのだと思うと胸の高鳴りを覚えた。記念館は安藤流のコンクリートと硝子張りの現代的な建物で、作り付けの書棚には 2 万冊の蔵書がぎっしり並ぶ。窓のステンドグラスは珍しく無色で天井まで大きく広がり、外の雑木林が静かに見える。

さて私は司馬さんご本人を 1 度だけお見掛けしたことがある。それは吾が師・八木一夫が亡くなったその日の夕刻だった。八木の死は突然で司馬さんも訃報を聞き弔問に来られた。掛け替えない友との最期のお別れをした司馬さんはショックを隠し切れない様子であった。薄暗くなった玄関での司馬さんの白髪が印象深く未だに私の目に残っている。「私はこのように世に居て、唯一の経験として天才が死ぬという衝撃を真向うから受けさせられた」と述懐している。その後程なくして NHK 日曜美術館で「私と八木一夫・作家司馬遼太郎」のタイトルで放映があった。「1 人の天才が何か触媒になるものがあったにせよ、誰の真似もせず自分のセンチメントのみで新しい造形物を作り上げた。それをどんなに語っても語りきれものではない」との結論であった。又八木は文才にも長け司馬をして「八木がいるかぎりうかつに小説など書けない」と言わしめたそうだ。斜め目線の毒のある八木の語り口は多くの学生を魅了したが、果たして私は天才八木から何を学べたのであろうか。それにしても人と人との繋がりがや偶然の出会いの不思議さをつくづく感じる。近畿大学のすぐ側に天才作家司馬遼太郎の聖地があることは誠に好ましく嬉しい事である。二人の天才に合掌

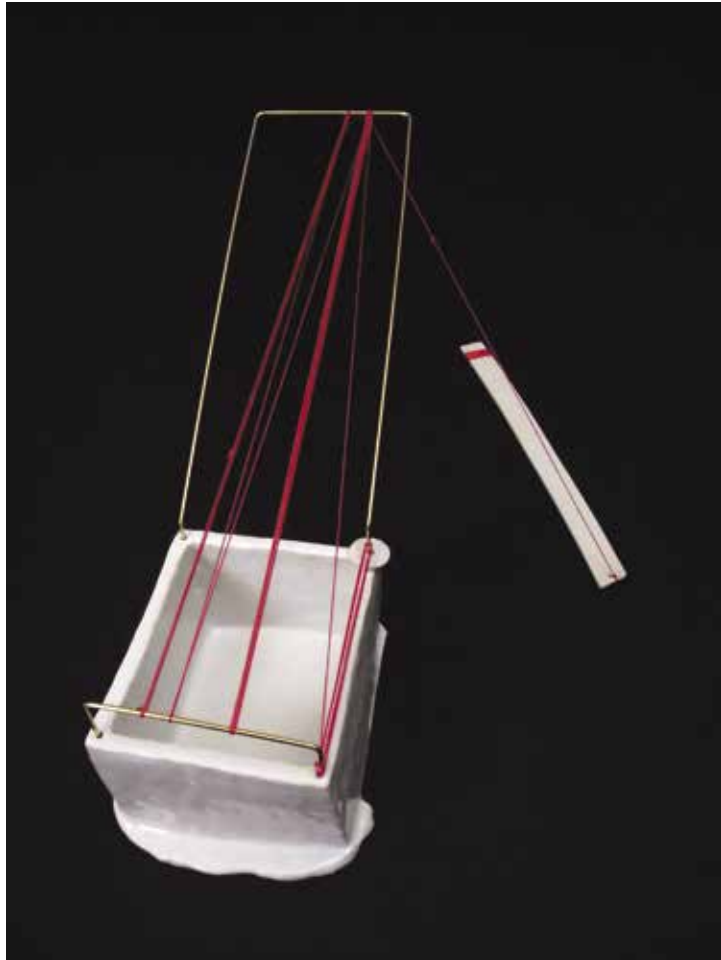
菜の花忌 竜馬も参上 八戸の里
紫雲たなびき 今ココ聖地



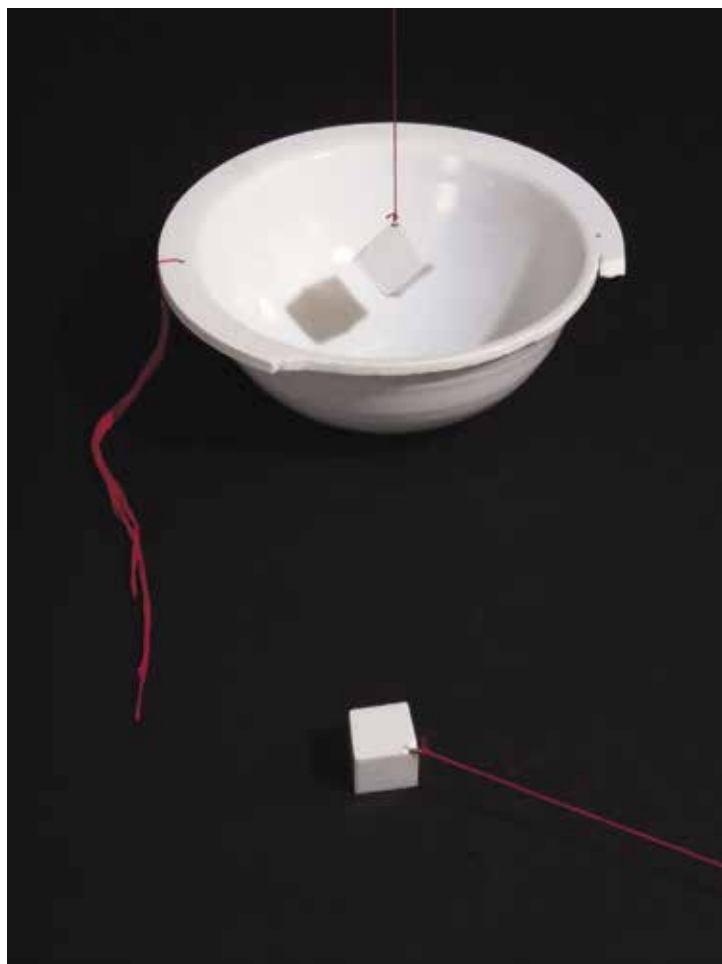
奈野 6 1 8 高 40cm



奈野 5 9 1 高 28cm



奈野 6 1 7 高 27cm



奈野616 高10cm



奈野 6 2 0 高 24cm



奈野 6 1 2 高 22cm



奈野 5 9 8 高 27cm